

トスカあらすじ

作曲：ジャコモ・プッチーニ

主な配役：

フローリア・トスカ：ソプラノ

マリオ・カヴァラドッシ：テノール

スカルピア：バリトン

時代：1800年6月 ローマ

第1幕：朝、サン・アンドレア・デッラ・ヴァッレ聖堂

朝早く脱獄した政治犯、アンジェロッチェが妹のアッタヴァンティ侯爵夫人の手引きでアッタヴァンティ家のこの聖堂に逃れてくる。遅れて、堂守が入ってきて、画家がいないのに驚き、弁当も手をつけていないのをいぶかしがる。戻ってきた画家の騎士カヴァラドッシがマグダラのマリアの肖像画の製作のために絵の前に上る。そのマリアの顔は、恋人トスカの顔ではなく、毎日のようにお参りに来るアッタヴァンティ侯爵夫人の顔を描いたものだった。そこで、カヴァラドッシは有名なアリア「妙なる調和」を歌い、トスカに寄せる思いと、美しいアッタヴァンティ侯爵夫人との調和を歌う。堂守が去るとアンジェロッチェが礼拝所から出てくる。カヴァラドッシは旧友と偶然会ったことを喜び、脱獄の理由を聞いて、命に代えても助けると約束する。そのとき、外からマリオと呼ぶ、トスカの声聞こえる。カヴァラドッシはアンジェロッチェに弁当を与え、礼拝所に隠れるようにせかす。トスカはカヴァラドッシが女性と密会していたのではないかとかんぐる。カヴァラドッシの否定で、帰ろうとするが、マリアの顔が侯爵夫人に似ているのに気がつき、アッタヴァンティと叫び、再び嫉妬の炎を燃やすが、カヴァラドッシは優しくなだめて、その場を収める。彼女が帰った後、カヴァラドッシはアンジェロッチェをつれて、自分の別荘へ行けと道を教えているときに脱獄を知らせる砲声が響き、二人はあわてて一緒に逃げる。

突然、警視総監スカルピアがアンジェロッチェの行方を調べに入ってくる。アッタヴァンティ家の礼拝所に空の弁当箱があるのを見つけ、スカルピアは画家が脱獄半をつれて逃げたと断定する。そこにトスカが戻ってくる。トスカに横恋慕しているスカルピアはアッタヴァンティ家の紋章の入った扇を見せて、トスカの嫉妬心をあおる。トスカは宮殿の演奏会に出演しなくてはならず、別荘に行けなくなったことを話しに来たが、画家がいないので、別荘へ急ぐ。スカルピアは、密偵、スポレッタに後を追うように命じる。

大勢の人達がミサに集まり始め、スカルピアがテ・デウムを歌う中、第1幕が終わる。

第2幕：ファルネーゼ宮殿のなかのスカルピアの部屋

スカルピアが夕食をとっている。そこにスポレッタが戻ってきて、アンジェロッチェを

取り逃がしたが、画家を捕まえたことを報告する。スカルピアは画家を尋問するが、一切拒否される。そこに宮殿で歌っていたトスカが入ってきて、カヴァラドッシが捕まったのに驚く。彼はトスカに何も言うなとささやき、別室につれてゆかれ、拷問される。スカルピアはトスカにアンジェロッティの居場所を聞く。拷問で責められる画家のうなり声がひどくなり、ついにトスカは居場所を言ってしまう。画家はそれを知って、裏切りに怒る。そこにナポレオンのイタリア戦線の勝利の知らせが入り、カヴァラドッシは勝利だと叫ぶ。それに怒ったスカルピアは絞首台への連行を命じる。平然と夕食を続けようとするスカルピアにトスカは彼の命乞いをする。

金で恋人 を救おうとするトスカに、スカルピアは彼女の身体との交換を持ちかける。あまりにむごい運命を嘆き、トスカは有名なアリア「歌に生き、恋に生き」を歌う。スポレッタが死刑の準備が出来たことを報告に来る。トスカがスカルピアの要求を承諾すると、彼はスポレッタに、絞首刑ではなく、パルミエリ伯爵のように形式だけの銃殺刑に変更するように命じる。心を静めようと水を飲みにテーブルのところに行ったトスカはナイフを見つける。トスカにキスをしようと抱きついたスカルピアに、これがトスカのキスと叫び、胸をナイフで刺す。死んだスカルピアから通行証をもぎ取り、ろうそくを立てて、立ち去る。

第3幕：サン・タンジェロ城の屋上、夜明け前

牧童の歌が聞こえる。カヴァラドッシが連行されてくる。彼は看守に指輪を与え、紙とペンをもらい、トスカに別れの手紙を書く。トスカとの幸せな日々を思い出し、有名なアリア「星は光ぬ」を歌う。そこにトスカが現われ、通行証を見せて、銃殺は見せかけであることを告げる。そして銃殺が始まり、カヴァラドッシは倒れる。止めを撃とうとする将校を押しとどめてスポレッタは去る…